

学習指導要領の趣旨を踏まえた知的障害教育における教科指導の在り方の実践研究

～学習評価と授業改善～

千葉県立香取特別支援学校 電話 0478-72-2911
FAX 0478-72-4179



研究のポイント

新学習指導要領で示されている「カリキュラム・マネジメント」を実践するべく、授業計画から授業改善までの過程を、児童生徒の現状を把握した上で計画を立て、授業を実践するという新たなマネジメントサイクル（CAPD サイクル）を活用し、学校の教育課程が改善され、児童生徒の個別最適化された学びの実現を目指し、研究を行った。

昨年度までの取組を生かしながら、各学部で対象とする教科・領域等について年間指導計画を立て、計画に基づいて授業を行った。対象教科・領域等については、小学部は生活単元学習、中・高等部は理科・社会科とし、それらの系統性を意識し展開することで、各学部間の繋がりが見えるようにしていく。また、課題としている授業実施後の学習評価については、学習評価の在り方を検証し、その評価を基に授業改善を図った。更に、授業研究会を通して、各学部の取組を共通理解するとともに、児童・生徒の学びの連続性を意識した教育課程や教科指導について検討し、一人一人の資質・能力を更に伸ばせるようにした。

■学校の概要 https://cms2.chiba-c.ed.jp/katori-sh/?pcviewer_flag=1

本校は昭和54年に開校した、知的障害・肢体不自由のある児童・生徒を対象とした学校であり、令和4年現在116名が在籍し、それぞれ香取市、成田市、東庄町、神崎町等から通学している。小学部・中学部・高等部が設置されており、児童・生徒の様々な実態に対応するべく、「知的障害に応じた各教科等の指導及び各教科を合わせた指導」「自立活動を主とする教育課程」を設けて教育活動を行っている。

■研究課題

学習指導要領の趣旨を踏まえた、知的障害の教科指導の在り方について実践研究を行う。

■研究の目的と方法

【研究の目的】

学習指導要領に基づき立てられた年間指導計画をもとに、CAPD サイクルに則った授業改善を行う中で、学びの連続性を重視した教育課程や教科指導の在り方を検討する。

【研究の方法】

小学部と中学部、高等部の3つのグループに分かれて研究を進めるとともに、研究テーマに関連した研修を行う。

- ①指導案と学習評価改善・振り返りシートと評価規準、判断の基準を組み合わせ、評価の焦点化、改善の明確化を図ることにより、職員の間で学習評価の理解が進み、改善点を共有することができるようにする。
- ②迅速・確実にサイクルを回転できる『CAPD サイクル』に則り、現在立てられた年間指導計画の見直しから始め、授業実践、振り返り、再度の授業実践、振り返り及び年間指導計画への反映、という手順で、カリキュラム・マネジメントを進める。

■研究概要

検証ポイント

①学習指導要領に基づいた、教科・領域の授業作りや授業改善の方法

【成果】

- ・根拠に基づいた授業作りと、その評価・改善サイクルの構築
→授業改善の結果を、確実に年間指導計画に生かすことができた。サイクルを回し、計画から授業、その結果としての評価・改善を行うことで、年間指導計画に反映させられることがわかった。

②学びの連続性を重視した教育課程

【成果】

- ・各学部における、教科指導とそのためのも年間指導計画の内容・時期見直し及び改善の実施
→内容項目・実施学年・時期・活動内容等を系統的に組み直す取組ができた。学部で話し合いながら、系統性を意識した教育課程が組めた。

③その他の成果

- ・各学部で、授業改善・年間指導計画の改善を通じ、全校での学びの連続性も図ることができた。
- ・担任間・職員間での年間指導計画のカリキュラム・マネジメントを行う意識が高まった。

【課題】

- ・評価の観点が類似した内容になり、個別性・具体性に欠ける。
→手立てを盛り込んだ評価の構成や多面的な評価の工夫の必要性。
- ・小・中・高各学部での系統性の確立。
→小・中・高等部通しての系統性を図った年間指導計画の作成。

関連資料

- ・特別支援学校 小学部 中学部学習指導要領
- ・特別支援学校 高等部 学習指導要領
- ・特別支援学校 学習指導要領解説 総則編（幼稚部・小学部・中学部）
- ・特別支援学校 学習指導要領解説 各教科等編（小学部・中学部）
- ・特別支援学校 学習指導要領解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）
- ・武富博文・増田謙太郎著 令和2年 7月 新学習指導要領を踏まえた「学習評価」の工夫 シアース教育新社